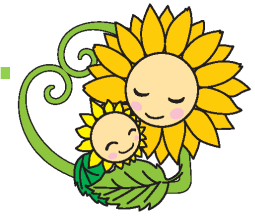


本当に いいの？



『か～し～て～（貸して）』『い～い～よ～』・『ごめんね～』『いいよ～』公園でお友達と遊んでいる時や幼稚園・保育園生活の中でよく耳にする会話です。
お友達と仲良く和やかに遊んでいる情景が浮かびますが…



そこに“気持ち”はありますか？

言葉だけがパターン化していると、相手の答えが「ダメ」だった場合「〇〇ちゃんがダメって言ったー！」と納得できないということも…

『かして』や『ごめんね』の答えは、いつも『いいよ』ではありません。時には『あとで』や『いや！』になることもありますよね。でもそれは、いじわるではありません。人との関わりの中で相手の気持ちを汲み取り、自分の気持ちとすり合わせて折り合いをつけるのは、とても大切なことです。

お互いに思いやりを持って、譲り合うことができれば言うことなしですが、うまくいかなかった時に、自分の思いだけを通すのではなく、「どうしたらいいのかな？」「また後で言ってみよう」「終わったら貸してね」と考えられる柔軟性を育てたいですね。円満解決を優先せず、お子さんの気持ちに寄り添い、思いを汲み取ってあげられると良いですね。